

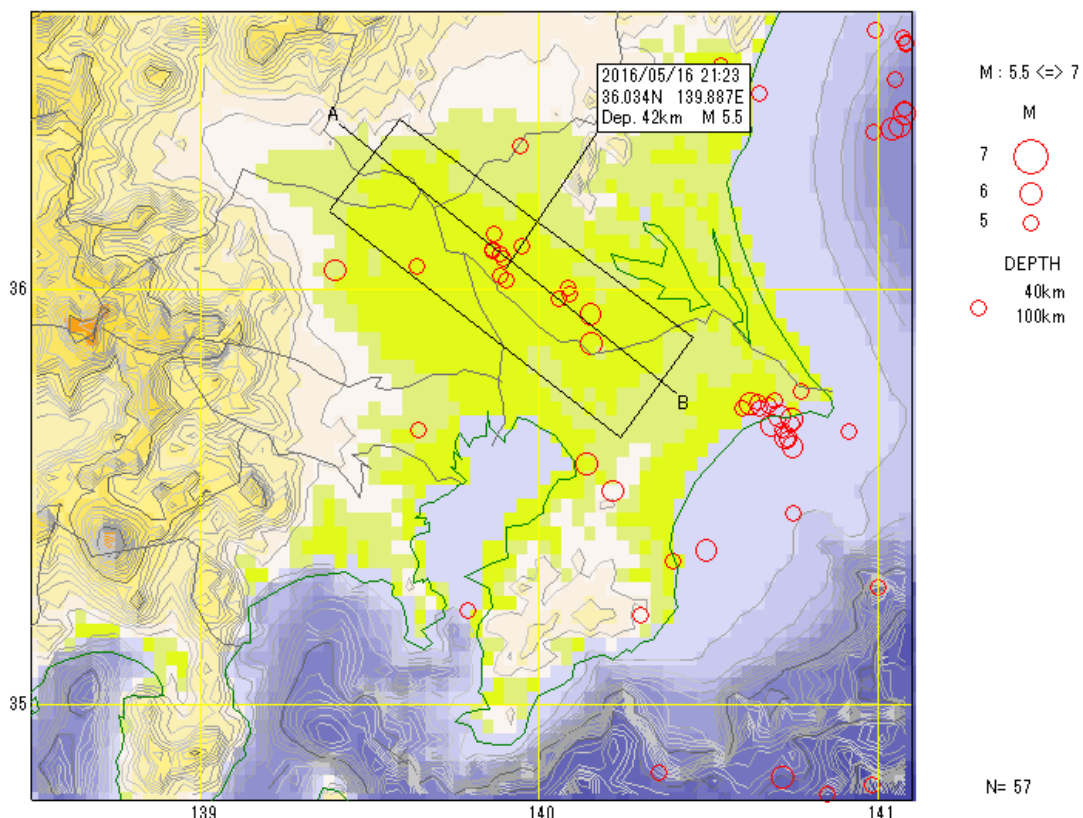


5月16日に首都圏で震度5弱を記録した地震について

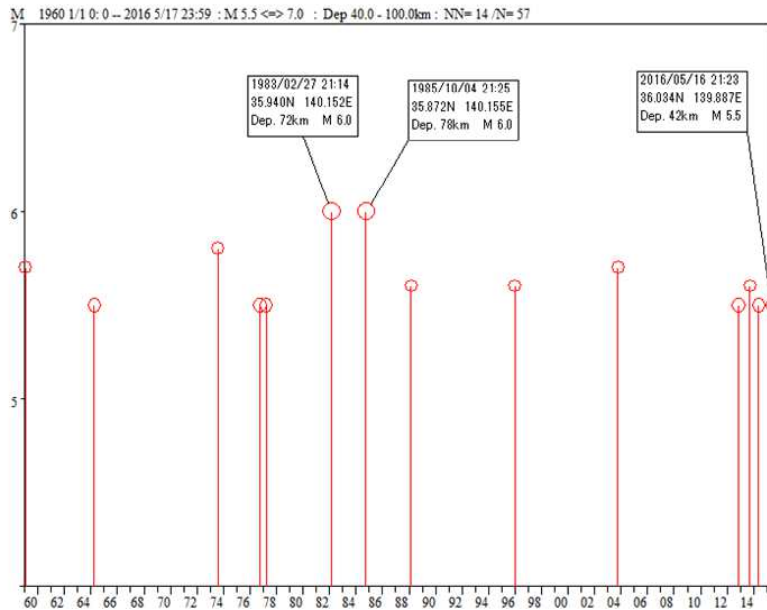
5月16日夜に茨城県で発生した地震は、震度5弱を茨城県小美玉市で記録したほか、広範囲で震度4を観測しました。最終的にマグニチュードは5.5となりました。この地震のエネルギーは熊本地震の本震のM7.3と比較しますとおよそ500分の1の大きさです。首都圏ではこの地震が大きなニュースとなりましたが、これは裏を返せば、熊本ではいかに大変な事が起きていたかという事になります。また発生した深さも40kmとやや深く、熊本の深さ10kmとは随分違います。つまり地表からかなり遠い所で発生しました。別の言い方をすると、東京駅からの距離で比較しますと10kmというのはちょうど京浜東北線の大森駅です。それに対して40kmは、東海道線の戸塚あたりとなります。つまり地表からの距離がこれだけ離れているということは、揺れも当然小さくなります。熊本の地震はほとんどが深さ10km程度のかかなり浅い(=つまり地表に近い)所で発生したため、小さなマグニチュードでも大きな揺れとなったのです。このような事が熊本では毎日のように続いていたのです。

実は今回の地震の場所はいわゆる“地震の巣”と呼ばれている地域で、今回と同じマグニチュード5.5以上という規模に限っても、1960年以降の56年間で、14個発生しています。

1960 1/1 0:0 -- 2016 5/17 23:59



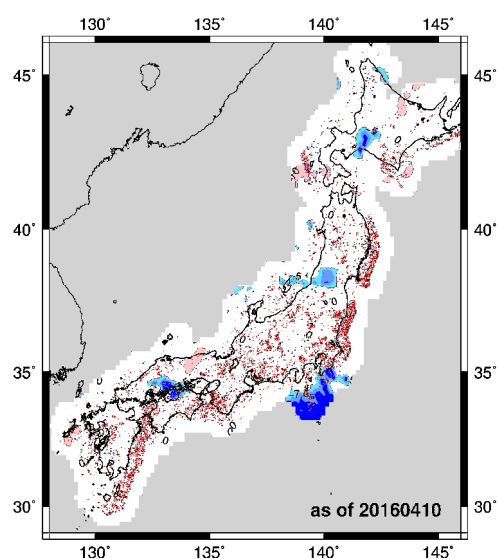
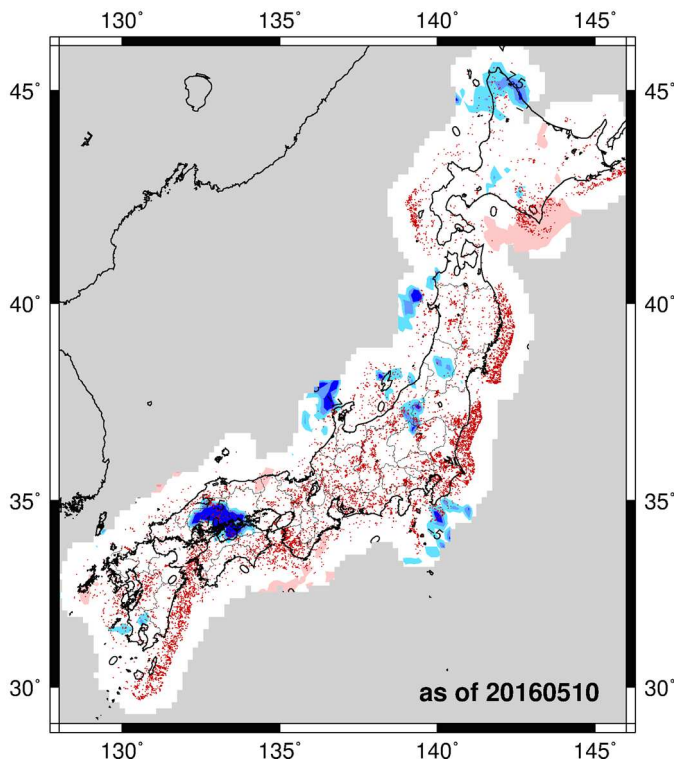
1960年から2016年5月までの関東地方の深さ40kmから100kmで発生したマグニチュード5.5以上の地震。四角の範囲だけで、14個発生している。またこの地域は“地震の巣”と呼ばれる領域でもある。



前のページで示した四角の領域で発生した地震がいつ発生したかのグラフ。  
横軸は1960年から2016年5月。縦軸はマグニチュード。気になるのは、  
東日本大震災の後の2013年ごろからたて続けに地震が発生している事である。

### 九州の地震活動の今後を占う一考察

熊本の地震はまだ活発な余震が続いています。DuMAでは、4月25日のニュースレターで新たな地震活動静穏化の異常が中国・四国地方に出現している事をレポートしていますが、この異常域がさらに拡大している事がわかりました。次の図は5月10日時点の日本列島陸域全体での地下天気図®です。



上：4月10日時点の地下天気図®  
左：5月10日時点の地下天気図®  
静穏化が進行中である

中国地方には山崎（やまさき）断層と呼ばれる九州の布田川・日奈久断層帯に匹敵する活断層が存在しています。今後の推移に注目していきたいと思ひます。